



租
稅
強
徵
法

第一号

大藏省
翻譯課

四一

2990



414
A 1983
1



紀元千八百五十八年

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

今村研介譯

オトルボムメルン列及ヒリユーケン嶋ニ於テ直税間
税其他ノ公金公収公費等ヲ強徴スルニ就テ祭セル一千八百
五十八年二月一日ノ布告

朕フリドリヒウ井ルヘルム我政府ノ上申ニ由リ都會ヲ包有
セルノイフオトルボムメルン列及ヒリユーケン嶋ノ行政廳ニ
於テ直税間税其他ノ公金公収公費等ヲ徴収スルノ改正ヲ行ヒ
之ヲ均一簡便ナラシメンカ為メ租税ニ関スル一切ノ現行條例
ヲ再査シ已ニ其調査ヲ遂ケタルヲ以テ今之ヲ布告ス即今左ノ
如シ

第一條 一般ノ原則

制法及ヒ憲法ニ從ヒ行政廳ニ於テ強徴ノ權ヲ有スル諸金高ハ
自今此布告ニ基キ以テ之ヲ徴收スヘシ

而シテ之ニ属スルモノハ

第一 直税即チ地租、財産税、分等収額税及ヒ營業税并ニ租税

ノ修正ニ係レル一千八百二十年五月三十日ノ制定法第六

一條ニ從ヒ特種ノモノトシテ上納スヘキ税又國及ヒ州郡

邑ノ供用ニ充テ、賦課セシ直税ノ附滯税

第二 ノイフオールポムメルン州ニ於ル火災保喉會社ノ為

メニ取立ツヘキ款社負ノ保喉料及ヒ抽籤會ノ現金高

第三 間税即チ解鹽税、鉛税、切手税、路税、橋税、運税、車税、笨重機

器税、堀割税、水門税、廻船税、港税、物置場税、傳染病預防税及ヒ

賃税料

第四 行政廳ノ權内ニテ科セシ罰金入費及ヒ償金

第五 諸會社并ニ民立會計局ニ納ムヘキ公金或ハ州郡若ク

ハ町村ノ義務トシ或ハ公場公局ヲ保持スル為メ或ハ公場

公局若クハ其結構ノ費用ニ供スル為メ納ムヘキ公金即チ

區入費、賑恤金、市肆税等

第六 公告期限中ニ種痘セシ區醫ノ手数料

第七 勸解裁判廳ノ會計局ニ納ムヘキ定例ノ入費及ヒ手數

料

第八 國主ノ所有地税及ヒ森林税

但シ未夕裁判上ノ訟ニ涉ラス只徴收令ニ原キ以テ

之ヲ徴收スヘキ時ニ限ルヘシ

第九 千八百五十年三月二日ノ年利銀行條例第二十一條(千

八百五十年ノ法律纂集第百十二葉)ニ從ヒ國稅ト一般ニ徴

收スヘキ款銀行ノ差入年例^利

第十 郵送税及ヒ郵送手数料

第十一 捺印手数料引水手数料其他官署ノ手ヲ經ル諸種ノ

検査手数料

第十二 義務ヲ行フヘキ者ニ對スル請求功驗アラサル後其
 算勘ノ為メ官署ノ命令ニ由テ他人ノ其還償又ハ引渡メ
 ハタル金高(警察權ニ関スル千八百五十年三月十一日ノ制
 法第二十條)法律纂集第二百六十五葉)但シ若シ行償上ニ干
 渉スル非ハ之カ為メニ設定セシ制法ノ條則ニ從フヘシ
 約子斯ノ如シト雖モ寺院學校賑恤院教徒寺僧并ニグライフス
 ウワルトノ大^ニ大学^ニ校ニ関スル出金及ヒ義務金ノ徴收ニ就テハ尚
 ホ別法ニ基キテ特別ノ強徴處分法ノ定規ニ從フヘシ又グライ
 フスウワルト上^ニ等裁判所及ヒエーレンブライトスタイン大審
 院管轄内民事裁判ニ係レル千八百四十九年七月十一日ノ布告
 第一條中第三項第四項ニ記載セシ教徒寺僧及ヒ學校使僕等ノ
 請求ニ就テモ均シク此布告(千八百四十九年七月十一日ノ布告)ノ條則ニ從フヘシ

第二條

強徴處分ハ徴収ノ委任ヲ受ケタル官署若クハ其官吏ヨリ之ヲ
 命スヘク而シテ其指揮ヲ受ケ之ニ附屬スル所ノ強徴者ニ於テ
 之ヲ決行シ或ハ強徴者ノ從屬スヘキ官吏ニ於テ之ヲ決行スヘ
 シ然レモ右ノ官署ニ在テ定常ノ強徴吏ヲ命セサル乎或ハ強徴
 本部ニ在テ直チニ強徴ヲ命セサルノ際ニハ則チ本部ニ於テ強
 徴處分ヲ決行スヘキ官署若クハ其官吏ヲ定署スヘシ

第三條

督促セシ租税上納ノ義務及ヒ決行セシ強徴處分令ノ權ニ関セ
 ル控訴(裁判所ニ申)ハ仍ホ従前ノ成法ニ循フヘシ之ニ及シテ強
 徴處分ノ過失ニ関セル不服ノ訴ハ其争訟スヘキ處分ヲ為セシ
 官吏ノ本管署ニ之ヲ申告スヘシ但シ其不服ノ訴ハ命令式及ヒ
 収當物ノ質物トナルヘキヤ否ノ問ニ係ルヲ得

第四條

強徵者ハ毎ニ必ス其職務ニ就テ收受セシ辭令書ヲ所持スヘシ
而シテ又義務者ノ望ニ任セ之ヲ明示スルヲ要ス
強徵者ノ處務及ヒ其中告ハ其委任ヲ受ケシ租稅徵收ニ関スル
者ニ限リテ充分ノ孚信ヲ有スヘシ

但シ又對ノ明証アルモノハ此限ニアラス

強徵者ハ誓約上ニテ之ヲ任スヘシ

第五條

強徵處分ハ法律上ニ確定シ或ハ特別ニ義務者ニ告示セシ上納
期限ヲ經過スルノ後直ニ之ヲ決行スルヲ得ヘシ

第六條

強徵ヲ命セシ後官署及ヒ各官吏ノ休務日ニ當レハ敢テ其處分
ヲナスヘカラス又ユダヤ人ニ對シテハ其休日及ヒ祭日ニ方

テ之ヲ行フ可ラス蒔種及ヒ收穫ノ節ニ際リ農業人ニ對シテ強
徵ヲ命シ及ヒ之ヲ施行シ之ヲ決行シ得ヘキハ止テ延滞ノ恐ア
ル時ノミニ限ルヘシ而シテ延滞ノ恐アルト否トハ強徵ヲ命ス
ル官署ニ於テ之ヲ認斷スヘシ此認斷ニ就テ或ハ不服ノ訴(強徵
ヲ命ス)出シ本管署ヲ為スアルモ為ノニ強徵ヲ停止セサルナリ又地
方ニ由テ蒔種或ハ收穫ノ要時ト視ルヘキ際強徵ヲ免除スヘキ
モノハ蒔種ニ在テハ春秋各十四日收穫ニ在テハ四週間タルヘ
シトス

第七條

現役ノ軍人及ヒ退隱料ヲ受ケタル士官ニ對シ強徵ヲ決行スル
ニ際シテハ兵營中或ハ同主旨ヲ以テ設定セシ服役場中ニ施行ス
ヘキ本管軍務廳ノ強徵告示及ヒ強徵決行ニ於ル一般ノ條則ヲ
注視參酌スヘシ

第八條 (督促及七強徴ノ告示)

強徴ヲ決行スル前ニ第二條ニ記セシ官署ノ作リシ督促状ヲ以テ状中ニ登記セシ所ノ滞金ヲ八日以内ニ納ムヘキ旨ヲ義務者ニ督促スヘシ若シ命ニ抗スル者アレハ之ニ對シテ收管又ハ其他ノ強徴法ヲ施行スヘシ
財産税、分等收額税ノ徴收ニ関スル一千八百五十一年五月十日ノ制法第十三條中ベチエ号中ノ條則(法律纂集第百九十三葉)ハ仍ホ之ヲ變更セス

第九條

強徴ヲ任セシ官吏(強徴者)ニハ督促命令ヲ記載シテ本官署(強徴官署)ノ作リタル督促スヘキ義務者ノ姓名及ヒ滞金ノ目録(滞税目録)ノ外又督促状ヲ授付スヘシ強徴者ハ其督促状ヲ領スルノ後之ヲ義務者本人或ハ家族中ノ成丁者若クハ同居人ニ手與ス

ルヲ要ス而シテ其手與セシ人名及ヒ其日ヲ督促状及ヒ滞税目録中ニ記入シ或否ノ如何ヲ証明スヘク若シ其收受ヲ拒ミ或ハ此等ノ人ノ不在ナルカ為メ之ヲ手與シ得ザルハ其督促状ハ必ス之ヲ義務者ノ外戸或ハ内戸ニ貼附シ置クベシ此場合ニ在テハ八日ノ期限ハ其貼附ノ日ヨリ之ヲ起算スヘシトス

第十條 (強徴及ヒ強徴法ノ諸種類)

八日ノ期限ヲ經過セル後ハ租税及ヒ督促手数料ノ滞金ニ就テ法律上強徴法ヲ施行スヘシ其法ハ即チ左ノ各種トス

(イ) 収當

(ロ) 請求権ノ差押

(ハ) 千八百二十五年十二月三十一日ノ勅令第十二條ベ号中ノ定規(千八百二十六年ノ法律纂集第十二葉)ニ於ル財産差押及ヒ財産貸貸

(三) 競賣

義務者ニ係レル土地ノ差押及、貸貸并ニ競賣ハ止テ他ニ絶エ
テ上納ヲ為サシムヘキ方法ノアラサル際ニ限リテ之ヲ行フコ
ト得ヘシ其他ノ強徴法ヲ施行スルニ方テハ敢テ其順次ニ注目ス
ルヲ要ヒスト雖モ一般ニ貨物ヲ繳收スルヲ常トス

第十一條 (收當)

收當ハ一ニ強徴處分ヲ命スル官署ノ作りシ收當命令書ニ基キ
以テ行フヲ要シ強徴者ハ此命令書ニ因リ義務者ノ所有中ニ在
ル動産ノ貨物トナルヘキモノヲ差押ユルノ権アルヘシ

第十二條

繳收スヘキ貨物ノ中ニ算入スヘカラサルモノハ則チ左ノ諸物
件トス

(イ) 義務者ノ婦及ヒ其養育ヲ受クル子女兩親ノ身位ニ應シ

平素缺タヘカラサル寢床、衣服、肌衣并ニ奴婢ノ寢床其他
生計ノ為メ缺クヘカラサル家什及ヒ厨具

(ロ) 煖爐及ヒ炊煙爐

(ハ) 技術者及ヒ職工手ニ在テハ其技術及ヒ營業上ニ缺クヘ
カラサル器械及ヒ其他千八百二十年五月三十日ノ營業
税則中第三十五條(法律纂集第四百十七條)ノ定款ニ関ス
ル物件

(ニ) 農業人ニ在テハ該業ニ缺クヘカラサル器具、牧場田畝ニ
係属スルノ動産及ヒ須要ノ肥料并ニ次期ノ收穫マデ備
ヘサル可ラサル麥、麩、種子及ヒ飲食ニ関スル穀類

(ホ) 文武ノ官吏ニ在テハ其職務上ニ須要ナル書籍又ハ日帶
缺クヘカラサル家什寢床、身位ニ相當スルノ衣服及ヒ肌
衣但シ退隱料ヲ受ケシ文武官吏モ亦相向レトス

（一）現役ノ士官下士官兵卒及ヒ其他ノ兵卒ノ級ノ服及ヒ人等
ニ在テハ其管所ニ存スル動産又非職給ヲ受ケレ免役士
官若クハ恩給ヲ受ケレ待命士官ニ在テハ其住家ニ在ル
動産

但シ此等ノ人カ所有スル紙幣現金記念貨幣及ヒ小飾
物モ亦尚收當物ノ中ニ算入スルヲ得ヘシ

第十三條

義務者ハ止タ左ノ場合ニ限リ收當ヲ拒ムヲ得ヘシ

（イ）驛遞局為換証券ノ受取証又ハ其証券ノ明示ニ依テ徴収
金皆納ラ証シタル時

（ロ）本管署ヨリノ延期許可ヲ明証シタル時

（ハ）徴収金及ヒ強徴手数料ヲ即今將テ上納セントスルノ情
况アル時

義務者ニ於テ末項（ハ）ノ場合并ニ其負債ノ一部ヲ直チニ上納セ
ントスル場合ニ際シテハ必ス強徴者ノ目前ニテ徴収金ヲ封包
シ其之ヲ上納スヘキ官吏ニ宛テ、之ヲ郵送スベク或ハ他日郵
送スルカ為メ之ヲ其所村長ニ寄托スヘシ
上納金ハ決シテ之ヲ強徴者ニ交付スヘカラス若シ強徴者ニ交
付セシ金負ノ本管署ニ達セサルハ負債者ハ^再徴ヒ之ヲ上納セ
サルヘカラサルナリ

第十四條

貨物ノ徴収ハ強徴者ノ意見ヲ以テ貨物トナルベキ現品ノ其徴
収金及ヒ強徴手数料ヲ全償スルニ足ルヘキ実額ヲ差押ヘ以テ
保険ニ充ツルヲ法トシ就中運送ニ易ク又賣却ニ便ナルノ物件
ヲ撰フヲ要トス而シテ已ニ^{強徴}繳納ノ命ヲ達セシ後ハ義務者ニ在
テ其動産及ヒ所有物ヲ差出し其末ニ注所及 其他ノ場可并ニ

此處ニ存在スル物置場ヲ開示スヘシ
義務者ノ居所若クハ其所有中ニ存在スルモノハ其名義假ヒ他
人ノ所有ニ属スルモ他ニ充分ノ收當物アリサルハ之ヲ差押
スルヲ得ヘク而シテ其名義ノ所有主ニハ收當ヲ命セシ本管署
ニ其請求ノ申告ヲ為サシムヘシ

第十五條

他ニ充分ノ質物ヲ繳收シ得サル間ハ他ノ債主ノ強要ニ由リ已
ニ質物ト為リタル物件ニ二重封印ヲ為シ以テ之ヲ差押スヘシ
而シテ此處分ヲ為スニ方テハ強徵者其官印ヲ前ノ封印ニ加押
スヘク其強徵者ノ本管署ニ於テモ亦質物ヲ差押ヘシ旨ヲ義務
者或ハ管財人ニ告知スヘシ又當初收當ヲ命セシ官署ニ二重封
印ヲ為セシ旨ヲ通知スヘク其官署ニ於テハ可力及速ニ其收當
物ヲ賣却シ加之ニ重封印ヲ為セシ官署ニ賣却期限ヲ通知シ

且ツ規則ニ照シ賣却金ヲ以テ兩請求者即チ初次ノ強徵者即チ
後次ノ二重封印ヲ為ス者ニ全償スルニ足ル乎否ノ見込ヲ述フ
ヘキナリ然レテ若シ賣却ヲ行ハサル場合ニ在テハ二重封印ヲ
命セシ官署ノ承諾ヲ得テ乃チ其收當物ヲ解免スルヲ帝トス

第十六條

質物ヲ繳收スルノ際其所村長或ハ一名若クハ數名ノ區吏或ハ
警察吏或ハ二名ノ純良者ニ立會ヲ要スルモノハ左ノ場合ニ限
レリトス

(イ) 質物繳收ノ際義務者ノ不在ナル時

(ロ) 住所ノ空シキヲ為メ強徵者ノ命令其功ナク或ハ所為上
ノ抗抵ヲ為セシ時

已ムヲ得サルノ場合ニ於テハ前記ノ人ノ目前ニテ威カヲ表シ
以テ質物ノ繳收ヲ為スヲ得ヘシ

若レ威カヲ以テスルモ義務者ノ抗抵當ホ防キ難キ并ハ強徵者
ハ其命ヲ受ケレ本署ニ其狀ヲ報告スヘシ然レモ其申告書ニハ
之ニ関スル法律ニ從ヒ強徵者ノ扶助ノ必要ナル所以ヲ載セス
ンハアルヘカラス

第十七條

出納局ノ設キ地方ニ在テハ強徵者ハ其收當ニ充テシ現金若
ノハ公債証書ヲ義務者若クハ收當ノ際ニ立會シ人ノ目前ニ於
テ封包シ出納官吏ニ宛テ、之ヲ郵送シ或ハ其收當ヲ領受シ若
クハ郵送ヲ為スヘキノ義務アル町村長ニ之ヲ交付スヘシ
其他ノ物件ハ置シク之ヲ注意保存スヘキノ信約ヲ為シ且ツ質
物ヲ無功ト為スニ就テ科スルノ刑ヲ明示シ以テ競賣ノ日ニ至
ルマテ之ヲ義務者ニ寄貯シ置クヘシ
若シ不信ナル為メ其收當物ヲ義務者ニ寄貯スヘカラサル并ニ

在テハ還償力ヲ有スル同区人若クハ町村長ニ之ヲ寄託スヘシ
消棄スルニアラスンハ供用シ難キ物品ノ收當ヲ命セシ後仍ホ
義務者ノ任所中ニ寄貯シ置ク并ハ其現状ニ從ヒ或ハ之ヲ消棄
センノ恐アル時ニ限リ之ニ封包捺印シ以テ豫メ他ノ供用ヲ防
グヘシ若シ義務者動産ノ收當物ヲ故意ニテ無功ノモノト為セ
シ并ハ刑法書第二百七十二條ノ定規ニ照シ以テ之ヲ處分スヘ
シ

第十八條

強徵者ハ質物繳収ノ經由ニ就テ此ニ関スルノ處置ヲ詳細ニ記
載スヘシ而シテ躬カラ之ニ姓名ヲ手署スヘキノミナス義務
者或ハ其代理人及ヒ其際ニ立會タル諸人ヲシテ皆之ニ其姓名
ヲ手署セシメ以テ其手署ノ真納ヲ注視スベキナリ
此際ニ方リ強徵者ハ復タ更ニ義務者ニ其上納ヲ督促スヘシ但

レ此場合ニ在テハ義務者ニ告クルニ若シ滞稅ヲ上納セザラン
ニハ今將サニ強徵者ノ特斷スヘキ貨物公賣ノ日ニ至ラントスル旨
ヲ以テスヘシ
強徵者ハ義務者并ニ質物保管人ノ望ニ任セ收當劄記ノ寫ヲ付
與スヘシ而シテ其現況ヲ劄記中ニ記入スヘシ
若シ義務者一モ收當物ヲ有セサルモ其處置ニ関スルノ記載ハ
尚之ヲ要スヘシトス

第十九條 (收當物ノ賣却)

收當ヲ命セシ當日ヨリ起算スヘキ十四日ノ定期内ニ義務者若
シ肯テ納金セス又絶テ他人ヨリ其所有權ニ関セル申告及ヒ其
證明ヲ為スナクシテ漫ニ其定期ヲ經過ヒシムルハ收當ヲ
命セシ官吏ハ收當劄記ニ基クヘキ定期令書ヲ以テ其質物ノ公
賣ヲ命スヘシ若シ又其質物ノ腐敗品ニ属スル乎或ハ義務者ノ

信ス可ラサルカ為メ其居所ニ之ヲ寄貯スヘカラスレテ又之ヲ
他方ニ轉移スレハ非常ノ費用ヲ要スルカ如キ時ニ在テハ義務
者ノ承諾ヲラサルモ定期中^(十四日ノ)定期内ニ公賣期限ヲ命スルヲ得
ヘシ然レモ此場合ニ於ルモ其公賣期限ヲ八月ヨリ以内ニ定ム
ルヲ得ス又豫シノ之ヲ義務者ニ告知セサル可ラス

第二十條

收當物ニ就テ請求權ヲ有スル人ハ公賣ヲ行フノ時ニ至ルマテ
ニ收當ヲ命セシ官署ニ之ヲ申告シ且ツ之ヲ表証スヘシ
該權ヲ有スル人其原由ヲ示スニ缺クヘカラスル事蹟ヲ誓約ノ
代トシテ証明セル片ハ之ヲ表証セシト毫モ異ナルナシ
若シ該權ニ関シ表証ヲ為サ、ル片ハ公賣ヲ停止セスト雖モ其
表証ヲ為セシ片ハ之カ情况ヲ査査セシ後其物品ヲ付與スルカ
或ハ名義ノ所有主^(請求權人)ニ命令書ヲ發シ以テ控訴^(裁判所)

ヲ指令スヘシ

第二十一條

質物ヲ繳収セシ出納局ニ對シ義務者ニ関セル他ノ債主先取權
ヲ主張スルコトアリトモ固ヨリ當ニ之カ為メ質物ノ公賣ヲ停止
スヘカラス況ヤ其債主ニハ賣却金上ニモ亦先取權ヲ及ホスヲ
許セルニ於テオヤ之ト同クシテ他ノ債主カ其強要ニ由テ繳収
セシ質物ヲ官署ニ申告シ以テ賣却セントスルハ出納局ニ在
テ滞税及ヒ公金ニ関シ争フ所ノ先取權ヲ以テ亦其賣却金上ニ
及ボサスンハアルベカラス

第二十二條

公賣ハ一般ニ質物ヲ繳収セシ地方ノ市場或ハ其他ノ通衢及ヒ
競賣場ニ於テ之ヲ強徵者ノ手ニ行フヘシ然レモ強徵ヲ命セシ
官吏ハ公賣并ニ收當ノ際毎ニ強徵者ヲ監視シ又指揮スルコトヲ

得ヘキカ故ニ公賣ヲ行フニ當テモ亦此ニ臨ムヘク又此目的ヲ

果スカ為メ強徵者ニ他ノ官吏ヲ附スルヲ得ヘシ
公賣ノ執行ヲ地方警察署ニ委託スルト否トハ強徵ヲ命スル官
吏ノ随意クルベク又其質物ヲ隣地ニ公賣スレハ必ス利益アリ
テ且ツ非常ノ運賃ヲ要セサルハ之ヲ命スルコトヲ得ヘシ其
質物ヲ他所ニ移シテ公賣スルハ非常ノ失費ヲ要スル時ニ限
リ必ス之ヲ義務者ノ住所ニ執行スヘシ

第二十三條

公賣ノ期日ハ適クモ八日以前ニ之ヲ告知シ又ハ揭示ニ賴テ之
ヲ廣告スヘシ又其告知ハ末期ノ日更ニ之ヲ再ヒスヘシ
公賣期限内ニ在テ其競賣スヘキ物件總計五列レ以上ノ價
格ヲ有スルモノナルハ其地方ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘ
ク若シ其地方ニ新聞紙ナキハ近地ノ新聞紙ニ由テ之ヲ公告

六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

スヘシ然レモ又強徴所分ヲ執行スルノ官署ニ於テ至當ト認量
スルカ或ハ義務者ニ於テ定期内ニ申告シ必要ノ費用ヲ拂ヒシ
并ハ此他ノ公告ヲ為スヲ得ヘシ

收當罰記中ニ確定セシ期限内ニ公賣ヲ行ハサル并ハ他ノ公賣
期限ヲ更ニ義務者及ヒ其貨物保管人ニ告示スヘシ

第二十四條

競賣スヘキ貨物ニ限リ通常競賣ノ際ニ方テ一箇ツ、競賣スル
ヲ例トス而シテ其買収ハ三回之ヲ競リ上ケシ後高價ヲ付シタ
ルノ人ニ帰着スヘク已ニ帰着セシ貨物ノ代價ハ即時ニ之ヲ拂
フヘシトス又定期内ニ公賣ヲ了ラサル貨物ハ他日復タ之ヲ競
賣スヘク此場合ニ在ラハ前日ノ公賣ニ際セル買人ハ再ビ之ニ
加ハルヲ得ス又町村長或ハ町村長ヨリ通知セシ區支警察吏
ハ必ス其競賣場ニ臨ムヘキナリ

此等ノ官吏并ニ強徴ヲ命ゼシ官吏及ヒ強徴者ハ自己又ハ他人
ニ因テ競賣品ノ買収ヲ為ス能ハサル者トス

第二十五條

競賣收入金ヲ以テ徴収スヘキ負債及ヒ諸費用ヲ全償シ或ハ直
チニ其不足金ヲ拂フ并ハ即チ競賣ヲ停止シ而シテ未タ競賣ニ
付セサル貨物ハ之ヲ其義務者ニ還付スヘシ
若シ公賣金ノ収額ヲ以テ負債ヲ全償スルニ足ラサル時義務者
ヨリシテ其定期中ニ競賣センカ為メ収當外ノ物品ヲ充分ニ差
出シタラシムヘキ便チ他ノ強徴處分ヲ停止スルヲ得ヘシ又競賣期
限ヲ断定スヘキノ官吏ハ公賣收入金或ハ公賣當日ニ上納スヘ
キ滞金全額ヲ領収スルノ権ヲ有セリト虽モ強徴處分ニ関スル
出納局ノ其地方ニ在ラサルカ為メ其金ヲ直チニ該局ニ交付ス
ル能ハサル并ハ義務者又ハ公賣ノ際ニ立會シ人ノ目前ニテ其

金ヲ封包シ之ヲ會計官吏ニ宛テ、郵送スヘシ或ハ郵送スヘキ
為メ之ヲ町村長ニ寄托スヘシ

第二十六條

競賣ノ經由ニ就テハ之ニ関係セシ官吏ニ於テ審カニ其處置ヲ
記載スヘク而シテ義務者ノ其場ニ在ルハ亦之ニ其姓名ヲ手
署セシムヘシ

第二十七條

遅クハ競賣後八日ヲ起ハサルノ間ニ出納局ノ使夫ハ強徴者ニ
依頼シ領收金ノ過剩ヲ義務者ニ返付スヘシ但シ此義務者ニハ
第二十六條ニ記載セシ處置割記ノ^馬ニナラス其特別ノ望ニ任セ
競賣費用ノ割記ヲモ付スヘキモノナリ
若シ競賣金ノ以テ負債ヲ全償スルニ足ラサルカ否メ復タ強徴
處分ヲ執行セシトスルハ滯金ノ銷算セサルニ因リ定期八日

ヲ過クルノ後再ヒ收當若クハ他ノ強徴法ヲ執行スヘキ旨ヲ義
務者ニ告示スヘシ

第二十八條

左ニ掲クル各件ハ第十九條乃至第二十五條ノ規則外タリトス

(イ) 公債証書ハ之ヲ差押ユルノ後八日內ニ他人ヨリ所有権
ノ申告ヲ為ス者アラサレハ引換ノ為メ之ヲ行政出納本
部ニ送付スヘシ

(ロ) 粉末ノ穀物、枯草、食用品及ヒ其他一般ノ市場貿易品ハ前
ニ記載セシ競賣及ヒ地方ノ公告ヲ為スヲ要セス只義務
者ノ承諾ニ由リ市場ノ最上相場ヲ以テ之ヲ賣却スルヲ
得ヘシ然レハ義務者ノ之ヲ辞拒スル際ニ在テハ^{却リ行カザル}次回ノ開市ニ延ハシテ其賣

(ハ) 金銀道具類ハ金銀本價ヲ以テ價ヲ定ムルヲ得ス又小飾
物、美術品、美術鑑定人ノ鑑定ノ如ク其價ヲ定ルヲ得ス

此ノ如キ物品ハ唯己ムヲ得サル場合ニ在テ引換ノ為ノ之ヲ縣ノ首地或ハ他ノ大都府ニ送致スヘシ

第二十九條 (義務者ニ於ル請求權ノ差押)

義務者ノ貸金又ハ他人ノ所有中ニ在テ該者ニ属スル物件ノ差押ハ強徴ヲ命スル官署ノ命令書ヲ以テ負債金ヲ出納局ニ納メ若クハ負債物ヲ競賣ニ供スル為メ之ヲ強徴者ニ交付スヘキ旨ヲ他人(義務者ヨリ金銭或ハ)ニ命シ以テ執行スヘクシテ裁判所ヨリスル差押ト同一ノ功ヲ有セリトス又義務者ニハ命令書ノ馬及ヒ命令書交付副記ノ馬ヲ下付シ其請求權ノ差押ヲ告示シ且ツ強徴法ヲ避クヘキ為メ貸附証書ヲ強徴者ニ交付スヘキ旨ヲ督促スヘシ又差押命令書ノ交付及ヒ義務者ニ於ルノ告示ハ強徴者之ヲ執行シ而シテ其成否ハ命令本書ニ記載シ以テ之ヲ証明スヘシ若シ他人差押命令書ヲ収手セルノ後其差押金及ヒ

其物品ニ就テ出納局ノ損害トナルハキ非為ヲ行ヒレバ其人ヲ視テ負債金ノ還償及ヒ負債物ノ交付或ハ其代價ヲ出納局ニ納ムヘキ義務ヲ擔ヘル者ト做ス可キナリ(之ニ及レテ)義務者ハ差押ノ功ニ因テ他人カ其負債金ヲ出納局ニ還償シ又其物品ヲ同局ニ交付セシコトヲ逐一ニ了承スヘキノミナラス尚ホ第十七條中ニ記載セル所ノ刑ヲ避クヘキ為メ差押ラレタル金若クハ其物件ニ属セル各權利ノ轉移收當或ハ其他ノ命令ヲ能ク遵奉セシムルハアルヘカラストス

義務者ヨリ金銭或ハ物件ヲ借リシ人若シ差押金ノ還償又ハ其物件ノ交付ヲ辞拒スルキハ強徴者ハ管轄本署(行政廳)收稅總裁、
洲稅局長、府知事等ノ命ニ由テ其人ヲ被告トシテ訴ヲ起スノ權
アルヘシ

却府ノ租稅公金若クハ其他ノ徵收ニ関スル訟權ハ現行ノ却府

行政法ニ從ヒ以テ之ヲ定ムヘシ然レモ訴訟ヲ任セラレタル官
吏(原告)ハ義務者ヲシテ其執行スヘキ裁判上ニ関カラシムルカ
為ノ裁判所ヨリ之ヲ召喚セシムルヲ得ヘシ

第三十條

給料又ハ恩給ノ差押ハ其徴収ヲ為スヘキ出納局又ハ其官署ヨ
リ強徴ヲ命ズル官吏ノ滯金強徴状ニ由テ之ヲ執行スヘシ又裁
判所ノ差押ト同功カヲ有スル強徴状ヲ以テ之ヲ義務者ニ告示
スヘシ

第三十一條 (土地ノ競賣)

負債者ニ属スル土地ノ差押及ヒ負債并ニ競賣ハ只第二十九條
ニ記載セシ官署ノ許可ヲ以テ之ヲ行フヲ得ヘシ

第三十二條 (他轄ノ人ニ對スル強徴)

此場合ニ在テハ差押及ヒ競賣ノ事ヲ本轄裁判所ニ呈告スヘシ

義務者ノ本轄上納區外タル他ノ區ニ於テ強徴法ヲ執行スヘキ
ノ時ハ之ヲ本轄官署ニ依頼スヘシ

第三十三條 (強徴處分ノ費用)

強徴處分ニ関スル費用ハ左ノ定項ニ基キ其費用表記ニ準シテ
之ヲ徴収スヘシ

イ 手数料全額ハ徴収ヲ命セラレタル各負債者ノ滯税及ヒ
滯費ノ總高ニ因テ之ヲ定ムヘシ

ロ 強徴處分ニ着手スルノ後ハ仮令納金又ハ貸金ノ交付ヲ
為シ或ハ其他ノ原由ニ因リ其處分ヲ停止スト雖モ表記
中別ニ事故アルニアラサレハ尚ホ手数料ノ全額ヲ拂フ
ヘシトス

ハ 強徴者同区内ニ於テ數多ノ強徴處分ヲ同時ニ執行セシ
時ト雖モ其手数料ハ各人別個ニ之ヲ拂ハサル可ラス然

レ其數多ノ公告又ハ質物公賣ヲ一綜ニ為シタル中ハ其
入費モ亦其全金高ニ應シ之ヲ一括シテ拂フヲ得ヘク而
シテ賣却金収額ノ多寡ニ從ヒ此ニ關係セル義務者ノ中
ニ就テ之ヲ各人ニ割附スヘシ

ニ 運送賃ノ割附其他數多ノ義務者カ連擔スヘキ拂金ノ割
附ニ就テハ強徵處分ヲ行フノ官吏ニ於テ物品ノ價値及
ヒ其大小輕重并ニ其他ノ要況ヲ正実ニ点検スヘシ
本 格外ノ旅費及ヒ食費ハ何等ノ事情アリレ表記上ニ登載
スヘキ手數料ノ中ニハ一切之ヲ莫入セス

ハ 第二十八條中ハ号ノ定規ニ從ヒ依頼セシ監定人ノ手數
料ハ裁判所ノ手數料定規ニ從ヒ之ヲ定ムヘシ
政府ハ表記ノ調査及ヒ其他ノ決定ヲ為スノ權アルヘシ

第三十四條

強徵者ノ手數料及ヒ其他ノ強徵諸費ハ收當物賣却金或ハ其他
ノ收金ヲ以テ強徵處分ヲ行フ所ノ官吏ヨリ之ヲ拂フヘシ
此等ノ金負若シ充分ナラサル中ハ此中ヨリ先ツ強徵者ノ手數
料ヲ拂フヘシ而シテ其他ノ強徵費ハ只其之ヲ拂ヒ得サル時ニ
限リ其預備金ヲ以テ之ヲ拂フヘシ或ハ強徵處分ヲ命セシ官署
ヨリ之ヲ拂フヘシトス

第三十五條

此布告ノ項件ニ係レル従前ノ諸規則ハ悉ク之ヲ廢除ス

第三十六條

現今ノ布告ヲ實施ノ為メニ必須ナル令ハ此ニ預ル參議ノ簽署
ヲ以テ之ヲ發スヘシ
乃チ茲ニ裁カ至尊ナル手署及ヒ玉璽ヲ鈐シ以テ之カ証トセリ
千八百五十八年二月一日柏林府ニ於テ

國王陛下ノ勅命ヲ奉ス 普國皇太子

フオン、マントイフェル
 フオン、デハイト
 シモンズ
 フオン、ラウメル
 フオン、ラエスタフアレン
 フオン、ボデルヒウケンク
 フオン、マツソウ
 グラーフ、フオン、ウウルセル
 フオン、マントイフェル二世

強徵手数料表記

甲 強徵者手数料ノ事		第一 督促手数料		第二 收當及ヒ貨物ノ繳収并ニ重封印		第三 揭示ノ作為及ヒ其物付并ニ觸知ノ	
以下	一タ	四	一	四	一	四	一
一乃至五	一タ	八	二	八	二	八	二
五乃至十	五タ	十六	四	十六	四	十六	四
十乃至五十	十乃至	一〇	〇	一〇	〇	一〇	〇
以上	五十タ	〇	六	〇	六	〇	六

	執行手数料	二	〇	二	〇	二	〇	四	〇
第四	競賣	四	〇	八	〇	六	〇	一	〇
第五	租稅義務者ニシテ負債ヲ有スル者 = 上納命令書ノ渡付及ヒ談義義務者 ノ告知并ニ其他ノ各渡付ノ手数料								
第六	取當割記競賣割記或ハ其他ノ割記 ノ寫書手数料	二	〇	四	〇	十二	〇	〇	二十
乙	他ノ費用ノ事	一	六	〇	六	〇	六	〇	六
第七	取當ノ際立會シ証拠人ノ手数料	二	〇	二	〇	四	〇	五	〇
第八	動産保管人ノ手数料	一	〇	二	〇	三	〇	五	〇
第九	此第九日ヨリハ半額ノテ若シ保管押付ヲ以テハ 此第九日ヨリハ半額ノテ若シ保管押付ヲ以テハ								

